



Title: 夏は食あたりと腰痛に注意を

午前中に車のラジオをつけると「子ども科学電話相談」(NHK ラジオ第1放送)が流れてきました。この番組を聴くと、あ〜夏休みになったんだと実感します。子どもたちの時に突拍子もない質問に目を白黒させながら(想像)、錚々たる専門家を揃えた面々が必死に答えていくスリルがたまりません。

さて、まずはお知らせから。8月6日(木)午前10時〜11時に、中央図書館1階児童コーナーで夏休み恒例「夏休みワクワクドキドキおはなし会」を開催します。読み聞かせサークル「おはなしの森」と高校生のお兄さんお姉さんがジョイントして、総力をあげての拡大版おはなし会です。入場はもちろん無料、どなたでもどうぞ。

❖ 墓碑銘がわりに

恩田陸の『EPI TAPH (エピタフ) 東京』(朝日新聞出版、2015年)を読み始めたところ。だからというわけではありませんが、今年上半期の物故者を紹介して偲びたいと思います。まずは作家から。敬称略です。

1月17日 平井和正(ひらい・かずまさ/満76歳)。代表作『幻魔大戦』シリーズ。市立図書館所蔵図書30冊。以下所蔵図書には共著・編訳書を含みます。

1月21日 陳舜臣(ちん・しゅんしん/90歳)。『新十八史略』。198冊。

1月26日 赤瀬川隼(あかせがわ・しゅん/90歳)。『白球残映』。27冊。

1月29日 河野多恵子(こうの・たえこ/88歳)。『みいら採り猟奇譚』。31冊。

2月26日 火坂雅志(ひさか・まさし/58歳)。『天地人』。31冊。

2月28日 松谷みよ子(まつたに・みよこ/児童文学/89歳)。『ちいさいモモちゃん』。229冊。

3月20日 今江祥智(いまえ・よしとも/児童文学/83歳)。『山のむこうは青い海だった』。154冊。

4月13日 ギュンター・グラス(ドイツ/1999年ノーベル文学賞/87歳)。『ブリキの太鼓』。16冊。

4月16日 白川道(しらかわ・とおる/69歳)。『天国への階段』。23冊。

4月22日 船戸与一(ふなど・よいち/71歳)。『猛き箱舟』。52冊。

5月2日 ルース・レンデル(イギリス/英国ミステリー界の女王/85歳)。『ロウフィールド館の惨劇』。6冊。

5月17日 車谷長吉(くるまたに・ちょうきつ/69歳)。『赤目四十八瀧心中未遂』11冊。

6月13日 高橋治(たかはし・おさむ/86歳)。『風の盆恋歌』。57冊。

こう書いて来ると、レンデルはともかく、それぞれ結構な数の所蔵があるものですね。もっとも4館合計だし閉架書庫にあるものも多いので、全て開架で目にできるわけではないのは以前にも書いたとおりです。本のタイトルや所蔵の有無は図書館ホームページから簡単に検索できます。気になる作家はぜひチェックして借りてください。

❖世紀のプリマから福島生まれの詩人まで

作家以外の物故者も見てみると、1月12日には、カラヤンや MARIA・カラスなど世界の音楽家を撮り続けた写真家・木之下晃（きのした・あきら、3冊）が79歳で死去。

図書館では7類（700番台）になる芸術関係から、音楽畑で2月1日のアルド・チッコリーニ（伊一仏、ピアニスト、89歳）、5月14日にはブルースの王様B・B・キング（米／89歳）。6月23日に亡くなったイラストレーター長岡秀星（ながおか・しゅうせい／78歳）は、作品集が2冊中央図書館に。

7類は幅広いジャンルで、780番台のスポーツもあれば、茶道花道に囲碁将棋といった「諸芸、娯楽（790）」まで含みます。「バレエ（769）」では、長くボリショイ・バレエのプリマを務め、65歳まで現役を続けたまさに20世紀を代表するバレリーナ、マイヤ・プリセツカヤ（露、89歳）が5月2日死去。「大衆演芸（779）」では3月19日、上方落語の至宝、3代目桂米朝（かつら・べいちょう、5冊）が89歳で死去。古今亭志ん朝（2001年没）、米朝の両師匠を大館の高座に迎えられなかった（間に合わなかった）のが、個人的に文化会館時代の2大心残りです。

最後に、詩人でありエッセイスト、児童文学者、翻訳家としても多くの著作を残した長田弘（おさだ・ひろし、75歳、33冊）が5月3日に。時代の良心と呼ぶにふさわしい魂でした。感謝をこめて、合掌。 （陽）